

指導資料



鹿児島県総合教育センター

特別活動 第17号

- 小, 中, 高等学校対象 -

平成16年10月発行

学校行事に主体的にかかわる 話し合い活動の指導の在り方

各学校においては創意工夫を生かし、特色ある教育を展開していくことが求められているが、特に特別活動は各学校の創意工夫の余地の広い教育活動であり、各学校の特色の形成に重要な役割を果たしている。中でも、特別活動の目標に示された「よりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度」の育成を図るために、各学校は児童生徒一人一人が自らのよさを生かし、それぞれの内容に主体的に取り組めるように学校教育活動のすべての場面で対応していく必要がある。特に、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深める学校行事を学校生活の充実と発展に資する体験的な活動として実践させるためには、学級における話し合い活動等において学校行事との関連を図り、一つ一つの活動を活性化させる必要がある。

そこで本稿では、児童生徒一人一人の自主的、実践的な態度をはぐくむとともに、児童生徒の体験的活動を一層活性化させるために、学校行事に主体的にかかわる話し合い活動の効果的な指導の在り方について述べる。

1 話し合い活動の意義

話し合い活動のねらいの一つは、児童生徒

が所属する集団、すなわち学級や学校の生活をより充実したものにし、集団や社会の一員として望ましい資質や能力・態度を児童生徒一人一人に身に付けさせることである。また、話し合い活動の意義については、次のようなことが考えられる。

(1) 豊かな人間関係づくり

昨今、人間関係が希薄であったり、他人に対する共感的理解が十分でなかったりすることなどが指摘されている。そして、そのことが生徒指導上の大きな課題の一つとなっている。その点で、話し合い活動は児童生徒が抱える諸問題を解決する上で真剣に考え、判断し、必要なことを決定していくなどの活動やかかわりを活性化するという意義がある。さらに、決定したことを全員で実践することで、協調性をはぐくむなど、児童生徒の人間関係を豊かにするという意義もある。

(2) 主体的態度の育成

児童生徒は、学級や学校生活を通じて所属感や連帯感をはぐくまれ、直面する諸問題に対してそれらの対応や解決を、集団場面を通して実践的、体験的に学んでいく。そのような自らの思いや願いを

実現するため、児童生徒は自分たちで発案し、創意工夫した活動に取り組んでいくことが重要である。

このような活動は、自分たちがどのように行動すればよいか深く考えたり、感情や衝動を制御して自分たちで決定した行動を着実に遂行したりするといった話し合い活動の特質と結び付くものである。

(3) 社会性の育成

社会性は、集団生活において児童生徒一

2 主体性をはぐくむ話し合い活動の基礎・基本

話し合い活動において、どうしても主体的な問題解決の能力を身に付けることができるのかということは、今後も集団活動に取

り組む上で基盤となる課題であると言える。そこで、以下に話し合い活動における基本的な活動のパターンを示す。

<p>【ア 主として全員で決定して、全員で取り組む活動】 (学級や学校としての課題や問題)</p>	<p>【イ 主として自分で決定して、自分で取り組む活動】 (共通した個人的な課題や問題)</p>
<p>《事前の活動》</p>	
<p style="text-align: center;">問題や課題の発見、収集</p> <p>[学級意見箱、生活の記録、学級日誌、朝の会や帰りの会での反省、係活動等の反省、教師の投げ掛け など]</p> <p style="text-align: center;">議題の決定、活動計画の立案</p> <p>[問題や課題の整理、議題の選定、議題の決定] [提案理由の検討、話し合いの柱の検討、事前の調査や活動、資料の作成、役割の分担 など]</p>	<p style="text-align: center;">問題や課題の発見、収集</p> <p>[学級(ホームルーム)活動年間計画、生活の記録、日常の観察、教育相談 など]</p> <p style="text-align: center;">活動計画の立案</p> <p>[題材や活動テーマの決定、設定期限の検討、活動の展開の検討、事前の指導や活動資料の作成 など]</p>
<p>《本時の活動》</p>	
<p style="text-align: center;">全員による討議と全員による決定 《集団討議》</p> <p>[問題や課題の重要性を理解する、話し合いのねらいや内容を理解する、話し合いの手順を理解する、原因や理由を追究する、解決策や改善策を追求し、全員で決定する など]</p> <p style="text-align: center;">集団による決定</p> <p>[全員の意見の統合、全員の総意による決定 など]</p>	<p style="text-align: center;">全員による思考と自己の決定 《集団思考》</p> <p>[問題や課題の重要性、必要性を理解する、話し合ったり考えたりする手順を理解する、全員で改善策を追究し、自分で決定するなど]</p> <p style="text-align: center;">自己による決定</p> <p>[全員の意見や考えを参考にして、自己に適した解決策や目標を決定 など]</p>

《事後の活動》	
<p>全員による実践</p> <p>〔決定したことを確認する，具体的な実践計画を立てる，協力し，分担して取り組む など〕</p> <p>反省と評価</p> <p>〔活動の成果を確認する，活動の問題点や課題を見付ける，新たな解決策・改善策を考える など〕</p>	<p>各個人による実践</p> <p>〔具体的な実践方法を明確にする，活動意欲を高め，持続を促す，過程との連携を図る など〕</p> <p>反省と評価</p> <p>〔実践の成果を確認する，実践の問題点や課題を見付ける，新たな解決策・改善策を考える など〕</p>

(「埼玉県中学校教育課程指導資料」を基に作成)

以上のように，アの場合には集団討議により，集団のために設定した目標を集団によって決定することが話合いのねらいとなる。イの場合には集団思考により，個人の目標に対して下した自己決定が，その話合いのねらいとなる。いずれの場合にも，児童生徒が自ら

の実践目標を見だし，自己実現を図ることができるように両者のねらいや特質を明確にし，児童生徒相互が主体性をはぐくむことができる話合いを実践していくことが大切である。また，実践の結果を指導改善に生かすような評価の充実も重要である。

3 話合い活動と学校行事の関連

児童生徒が，学校行事に主体的にかかわることができる話合い活動を実現するためには，学校生活に秩序と変化を与え，集団への所属感を深めるとともに，学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行うという学校行事の特質を踏まえながら，次のような視点をもって指導に当たることが求められる。

(1) 総合的な活動となるための指導

集団への所属感を深めたり，学校生活を充実・発展させたりするためには，学校行事だけでなく，各教科，道徳，総合的な学習の時間，また，特別活動の他の内容など様々な教育活動の成果を生かし，総合的に発展させることが大切である。特に，話合い活動の指導に当たってはその特質を踏まえ，話合い活動から学校行事へのつながりを見通しをもって取り組

ませることが必要である。

(2) 学校生活がより豊かに充実したものとなるための指導

学校生活にリズムを与え，折り目を付け，生き生きとした生活を実現するために，学校行事は大きな意義をもっている。

そこで，学校行事において望ましい校風を構築したり，豊かな学校生活を実現したりするために，自分たちで何ができるのかを主体的に考え，話し合っていく資質や能力を身に付けていくという視点をもち，話合い活動を展開していくことが大切である。

(3) 参加・協力を通しての自主的，実践的な活動となるための指導

児童生徒の自主性，実践への意欲をはぐくんでいくためには，児童生徒に行事の意義を十分理解させ，自発的に参加し，協力していく場面を数多く取り入れてい

くことが、重要なことである。そのために、 の自主的な参加が促されるような話し合い活動 行事の種類や内容、特質に応じて、児童生徒 を取り入れることが大切である。

4 学校行事に主体的にかかわる話し合い活動の実例

「地域へのボランティア活動」という学校行事に取り組む中学校の例

【学級活動における話し合い活動例】

過程	主 な 学 習 活 動
導 入	1 学級活動委員によるアンケート調査結果の発表 (ボランティア活動について、生徒がどのようなイメージをもっているかを調査しておく。)
展 開	2 今まで他の人からしてもらったことで嬉しかったこと等についての発表 (日常生活とボランティア活動とのかわりや考えを考察することができるようにする。)
	3 他の人や地域のために役立った体験の発表 (自分がしてもらったり、他の人の役に立ったりした活動を発表し合い、話し合う。)
	4 ボランティア活動の発表 (日ごろから活動を行っている人々を講師として招いて、ボランティア活動を行った動機、活動内容、活動して気付いたことや学んだことを発表してもらう。)
	5 話し合い (ボランティア活動とはどのような活動かを話し合い、発表する。)
ま と め	6 まとめ (これからの生活で自分にできることを考え、ボランティア活動の意義についてまとめる。)

【話し合い活動との関連を図った学校行事例】



過程	主 な 学 習 活 動
事前の活動	学級活動で学んだ「ボランティア活動の意義」について思い起こさせ、ボランティア活動についての事前調査及び活動希望先の調査を行う。 活動内容についてそれぞれの活動の意義や方法などを知り、自ら活動する希望先を決定する。
本時の活動	活動先への事前訪問等を通じて分かったことを基に、ボランティア活動計画の立案を行う。 当日の活動
事後の活動	お世話になった人へのお礼の手紙を書く。感想や今後の抱負を冊子にまとめたり学年集会等で報告会を開いたりする。

このように、学級活動における話し合い活動の場面で、十分にボランティア活動の意義について事前指導を行うことで、一人一人の生徒がその活動の意義を理解し、自主的、積極的に活動できるように指導していくことが必要である。

学校行事には、行事の種類や内容、特質に

応じて児童生徒による自主的、自発的な活動を取り入れることができる。そのような活動にするためにも、事前の準備の段階から児童生徒が主体的にかかわることができる話し合い活動の、更なる充実が望まれる。

【参考文献】

文部省 『小、中、高等学校学習指導要領解説特別活動編』 平成11年

宮川八岐著 『21世紀型特別活動の実践構想』2001年 明治図書

(教科教育研修課)